



新本田消防署長挨拶



令和7年4月1日付で着任いたしました。石川洋介（いしかわようすけ）です。歴史と伝統ある本田管内の安全・安心を守るため、消防団と消防署が連携した防火・防災への取り組みを進めましょう。地域の皆様には今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度消防操法大会

令和7年5月18日（日）、令和7年度本田消防団消防操法大会が昨年までの新小岩公園から東新小岩運動場に会場を変更し開催されました。

緊張と興奮が高まる中、全16分団が日頃の訓練成果を発揮しました。結果、優勝は第12分団、準優勝に第8分団、第3位に第3分団。以下入賞は第14分団、第4分団、第2分団、第9分団、第10分団でした。選手はもちろんの事、大会に携わった皆様大変お疲れ様でした。

優勝した第12分団は、10月に行われる東京都消防操法大会に本田消防団の代表として出場する事が決定しました。大会に向けて各分団のご協力をお願いいたします。

（団本部）

消防操法大会とは

消防団員の技術向上と士気を高め、消防活動の充実発展に貢献することを目的としています。

迅速かつ正確に消防活動を行うための基礎を築くための訓練でありその技術を競い合うことです。



隊を率いる

1週間前に決行した雨対策の訓練。選手達は身にまとった活動服の色が変わるほど濡れながらも、足元が滑り視界が悪化しようとも、渾身の操法を展開していました。

普段地域住民が知らないところでも、献身的に活動を続けている消防団。まさにそれを再現したかのような象徴的な光景でした。その姿を心強く感じるとともに、少しでもいい環境で大会を迎え、この勇姿を多くの人に見て欲しいという気持ちが強まりました。

今年から選手6人に対して、分団長名で任命書を交付しています。1人ひとりに期待を込めると同時に、指揮官としての任命責任の重さと向き合いました。大会当日、各委員の点検報告で『異常なし』の声を聞いたときには、達成感もさることながら、選手達の身に災いが起きなかった事に安堵しました。

第12分団代表としての責務を背負い、多くの方々に感動をもたらしてくれた、選手諸君を誇りに思います。無事に都大会の待機線に立ち、持てる力を発揮できることを切に願ってやみません。

（第12分団分団長 山口洋二）

操法大会個人賞受賞選手名

指揮者の部	第12分団	副分団長	増田 寿
1番員の部	第12分団	班長	前田 真吾
2番員の部	第8分団	団員	渡辺 龍星
3番員の部	第14分団	団員	大澤 一弘
4番員の部	第14分団	部長	尾西 教一

個人賞受賞者の声

指揮者の部

第12分団 副分団長 増田 寿

今回の大会は、都大会出場権を得られる年にあたり、特に山口分団長、二番員の吉田部長の熱意に応えるべく、悲願の優勝を目指して、練習を積み重ねて来ました。更には、入団時から長年お世話になった元・分団長の山田隆利さんが今年二月に急逝され、必ず優勝して墓前に報告しに行くこと決めました。

本番では、特に声で隊を引っ張れるよう努めました。

有形無形の後押しが重なり、今回の結果に結び付いた事を思うと、今回でも不思議な気持ちです。

分団の皆さん、指導下さった署員、そして一緒に活動に参加してきた妻と息子には感謝しかありません。

1番員の部

第12分団 班長 前田 真吾

待機線に着いたとき、火点の標的

をいかに速く正確に倒すかに集中していました。毎回チームワークで操作の改善に取り組めたこと。何度も映像でも確認して、減点箇所を互いに注意してきたこと。操法開始の合図まで、それらの記憶を蘇らせていました。

そして、今までの訓練を信じて最初の一步を踏み出しました。

これからも同じ葛飾区を守る消防団員と力を合わせて、地域防災への貢献をしていきたいです。

2番員の部

第8分団 団員 渡辺 龍星

今年は会場が変わり、走りやすくなり止まる位置等、不安がありました。が「確実に一つ一つ」を強く意識しつつ、リズムよく最後までホースを繋ぎ、伝達する事が出来ました。

訓練は選手だけでは出来ません。毎回の設営、安全管理、ホース巻き、撤収と、第8分団全員の協力が無ければこの結果はありません。

また、町会や地域の方々のご支援にも重ねて感謝申し上げます。この経験を地域防災に活かせるよう今後も精進してまいります。

3番員の部

第14分団 団員 大澤 一弘

入団して4年目。

今大会で2度目の操法大会参加。昨年続き、3番員を務めさせて頂きました。

前回は動きを覚えるだけで精一杯で、振り返っても自分の間違えが認識できておらず、悔しさだけが残りしました。

今大会、第14分団は指揮者である澤田部長の下、過去最高順位、あわよくば個人賞という目標に向かってチーム一丸となって練習を重ねました。

練習には選手だけでなく、団員が大勢参加し、ご指導頂ける環境がありました。団員の皆さんに、撮って頂いた動画を確認し、イメージの中でも練習が出来たのが大きかったと思います。

個人賞という成績に繋がりましたが4番員と一緒に受賞できたことを鑑みても、第14分団全員で取った賞と思っております。

今後も訓練を続け、地域防災に役立てるよう精進します。

4番員の部

第14分団 部長 尾西 教一

今大会が私にとって3度目の操法大会であり、4番員としては、最後の大会と言われておりました。日頃の練習では、上手く水を送ることが



出来ず、タイムが上がらず悩んでいましたが、先輩から「基本動作と安全第一だよ」と言われ、タイムより基本動作と仲間の安全を第一に考え大会に臨みました。その結果、最優秀賞を頂くことができました。

今日まで、指導して下さった先輩、練習に付き合ってくれた同僚、応援してくださったOBや地域の方、携わってくれた全ての皆様に感謝申し上げます。

本当に、ありがとうございます。これからも、地域の安心安全のために、努めて参ります。

**消防庁長官表彰
永年勤続功労章**

本田消防団副団長の平野義明様が令和6年消防庁長官表彰で永年勤続功労章を受章されました。
長きにわたり、地域の防災に献身的にご尽力された功績が認められ、受章されたものです。

(団本部)



**第77回
日本消防協会定例表彰**

精績章

第11分団 副分団長 櫻井 秀樹

勤続章

第13分団 分団長 清田 典且
第13分団 副分団長 荻原 均
第1分団 副分団長 東間 祥則
第1分団 部長 新谷 幸夫
大規模災害団員 小山 善男

**令和6年度
東京都消防協会定例表彰**

功労表彰

第12分団 分団長 山口 洋一
第14分団 副分団長 天野 都子
第11分団 副分団長 柿澤 淳

優良表彰

第1分団 副分団長 松崎 正彦
第6分団 副分団長 百瀬 敏明
第12分団 副分団長 小堀 泰克
第12分団 副分団長 増田 寿
第6分団 部長 米山 真吾
第6分団 部長 千田 高裕
第6分団 部長 志村 國彦
第11分団 部長 石川 拓磨

**指揮幹部としての責任と覚悟
第9期 指揮幹部科研修を受講して**

令和7年3月15日(金)から16日(土)の2日間、東京消防庁消防学校で開催された「第9期指揮幹部科研修」に参加しました。

この研修は、大規模災害発生時など、消防団が単独で災害に対処する事態を想定し、現場指揮者として不可欠な知識と技術を習得することを目的としています。特に、「団員の安全管理」および「単独対処時の指揮体制の確立」の重要性を深く学ぶ貴重な2日間となりました。

研修の中でも特に印象深かったのが、災害図上訓練です。団本部と活動隊に分かれ、モニターに映し出される災害情報に基づき、無線通信を通じて連携を取りました。現場の活動隊は、刻々と変化する状況に対応し、危険区域の報告や救急搬送の要請、他分団への応援要請などを本部へ逐次伝達。団本部は、これらの情報を集約・分析し、迅速かつ的確な判断を下す訓練に取り組みました。

一つの隊との連携でさえ集中力を要する中、本田消防団のように全16分団の情報を統括する本部の役割は非常に重要であると改めて実感しま

した。冷静かつ的確な指示が求められる指揮幹部の責任の重さを強く認識させられました。
閉講式において、消防学校長からいただいた「訓練は基本、現場は応用」という言葉が今も心に深く響いています。この言葉を胸に、これからも副分団長としての職責を全うし、大切な団員の安全を守るため、日々の活動に真摯に取り組んでまいります。

(第1分団 副分団長 横井 崇)

消防団員募集

入団資格
18歳以上の健康な方
消防団の区域に居住・勤務・通学している方

<https://tokyo23city-swobodan.jp/>
東京消防団

詳しくは特別区消防団HPをご覧ください。

0120-119-588

市町村の方は、各市町村の窓口までお問い合わせください。

「ほんでん消防フェスティバル」開催

令和7年3月1日(土)、青戸平和公園にて「ほんでん消防フェスティバル」が開催されました。

午前10時、本田消防署員による出場指令を皮切りに、防火衣の着装や出場のデモンストレーションが行われ、イベントがスタートしました。会場では、消火器やスタンダードパイプ操作、119番通報、応急救護、はしご車搭乗等、さまざまな体験コーナーが設けられ、来場者の皆さんに楽しんでいただきました。



私たち消防団員は、お子さんたちにミニ防火服を着てもらい、可搬ポンプ積載車の前で記念撮影をするイベントを担当しました。多くのご家族連れが列を作り、大変賑わいました。

その待ち時間を活用して、保護者の方々に消防団の活動内容を紹介し、入団を呼びかける募



集活動も行いました。

来場された方の中には、消防団の存在を初めて知るといふ方もおられ、このイベントを通じて、地域の消防団活動を広く知っていただく良い機会になったと感じています。今後もこのような活動を継続し、地域内はもとより全国的に消防団員が増えることを願いながら、私たち自身も一層努力してまいります。

(第7分団 部長 鈴木 章友)

葛飾区合同水防訓練に参加して

令和7年5月31日(土)、堀切水辺公園にて実施された令和7年度葛飾区合同水防訓練に、消防団員として初めて参加いたしました。

高校在学中に東京消防庁の職員の方々の姿に憧れを抱いたことをきっかけに、消防団へ入団しました。今回の訓練では、水防第一小隊の一員として釜段工法を担当しました。当日はあいにくの強風と雨の中での実施となり、訓練とはいえず非常に過酷な環境下での活動となりました。

実際の水害発生時には、これ以上には厳しい状況下での対応が求められることを、身をもって実感する貴重な機会となりました。



これから梅雨の季節を迎え、台風や集中豪雨による洪水・浸水のリスクが高まる時期に入ります。

そうした事態に的確かつ迅速に対応できるように、日頃からの備えや訓練、そして防災意識の向上に一層努めてまいりたいと強く感じました。

今回の水防訓練を通じて得た経験や学びは、今後の消防団での活動はもちろんのこと、将来、東京消防庁に入庁した際にも必ず活かしていきたいと考えています。

(第2分団 団員 清藤 和真)



第14分団新本部施設落成

令和7年4月26日(土)、本田消防署ならびに関係各位のご尽力により、新しい第14分団本部が東堀切一丁目16番地に開設され、無事に落成式が執り行われました。

これまで使用していた堀切八丁目の旧分団本部は、築三十数年を経ておりましたが、長年にわたり地域の防災・安全に大きく貢献してきました。このたび新たに完成した分団本部は、より機能的かつ充実した設備を備えており、今後は地域の防災拠点として、さらに重要な役割を担っていくことが期待されます。

第14分団の活動区域は、西亀有からお花茶屋に至る広範な地域にわたり、新分団本部の開設により、これま

で以上に迅速かつ的確な対応が可能となります。地域住民の皆様ご安心・安全のため、今後も精力的に活動を続けてまいります。

(第14分団 分団長 吉田 道子)



「紙面だけじゃ、伝えきれない！」
本田消防団広報委員会
Facebook ページ開設！



広報誌だけでは伝えきれない活動の様子や、最新情報をリアルタイムでお届けします。地域の安全を守る消防団の「今」を、ぜひFacebookでご覧ください。

「こんな情報が知りたい」「これも載せてほしい」といったご意見・ご要望も大歓迎です！ぜひフォローして、本田消防団の活動を身近に感じてください！